

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】 小学校英語教育法		
担当者(Instructors)	西崎 有多子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)
オンライン授業を中心に、一部対面授業を状況に応じて行なう。目標は、小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることである。概要は、小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、中・高英語教育との連携と役割、児童や学校の多様性への対応力、児童期の第二言語習得の特徴の理解と留意点・活用法、実践に必要な基本的指導技術の習得、英語でのやり取りの進め方、文字の導入法と指導、授業づくりに必要な知識と技術、学習状況の評価の方法等、授業実践に必要な知識・指導技術・授業づくりを学ぶ。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	対面またはオンライン授業での講義ならびに一部実技形式で行なう。指導案作成や模擬授業は、グループワークやディスカッションを取り入れて行う。

■ 各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション、学習指導要領、映像による小学校英語授業観察(1)	授業の進め方、学習指導要領、小学校英語の授業の確認。	☐
第2回	小・中・高の連携と小学校の役割、児童や学校の多様性への対応、主教材(1)と指導案	小中高の連携、児童や学校の多様性、主教材と指導案について学ぶ。	☐
第3回	子どものことばの学び方の確認（言語習得、類推から理解、音声でのインプット等）	子どもの言語習得について確認し、指導上の活用について学ぶ。	☐
第4回	伝え合うことのポイント、4技能、言葉の面白さへの気づき、国語との連携、他教科活用	伝え合うためのポイント、国語との連携、他教科の活用等の指導上の留意点を学ぶ。	☐
第5回	英語でのスモールトーク、クラスルームイングリッシュ(1)、模擬授業体験(1)と指導案作成	スモールトークの実践と模擬授業の体験、指導案作成を行なう。	☐
第6回	学習到達目標、年間指導計画、短時間学習、学習指導案の形式と立案、主教材(2)	学習到達目標、年間指導計画、短時間学習、指導案作成、主教材について学ぶ。	☐
第7回	模擬授業(1)、振り返り、英語のやり取りの実践演習(1)、クラスルームイングリッシュ(2)	模擬授業を行ない、振り返りを行なう。英語のやり取りの方法を学ぶ。	☐
第8回	模擬授業(2)、振り返りと授業体験、文字の導入方法と留意点、読む活動	模擬授業を行ない、振り返り、改善方法を学ぶ。文字指導と読む活動について知る。	☐
第9回	模擬授業(3)、振り返りと授業改善、文字指導と書く活動、クラスルームイングリッシュ(3)	模擬授業を行ない、振り返り、改善方法を学ぶ。文字指導と書く活動について知る。	☐
第10回	題材の選定、教材研究、ICT教材の活用、英語のやり取りの実践演習(2)	教材研究、ICT教材の活用法、英語のやり取りの実践を行なう。	☐
第11回	模擬授業(4)、聞く・話す指導、振り返りと授業改善	模擬授業を行ない、振り返りと改善方法を学ぶ。聞く・話す指導について学ぶ。	☐
第12回	学習状況の評価（パフォーマンス評価、到達目標）、英語のやり取りの実践演習(3)	評価について学ぶ。英語のやり取りの実践を行なう。	☐

第13回	ティームティーチングによる指導の在り方と模擬授業体験(2)	ティームティーチングについて学び、その模擬授業体験を行なう。	☐
第14回	模擬授業(5)、ティームティーチングの実際	ティームティーチングを取り入れた模擬授業を行ない、振り返り、改善を行なう。	☐
第15回	模擬授業(6)、まとめ	最終模擬授業(6)とまとめをする。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
事前学習として、指導する単元の目標・指導内容をよく確認し、教材研究を行う。評価方法を含む指導案を作成し、模擬授業の練習を2時間程度行なう。事後学習として、指導案や模擬授業について改善点を確認し、次回はスモールトークやクラスルームイングリッシュを更に活用できる指導案に向けて改善と工夫を2時間程度行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
オンラインの課題については質問欄を作り、速やかに個別コメントで回答する。次の配信で解答例と解説を行なう。重複した質問等に対しては、配信教材の中でフィードバックする。小テストを行なった際は、復習プリントを配布する。指導案作成・模擬授業後は、ディスカッションで意見を出し合って改善点を見出し、次回以降に反映されているかをチェックする。レポートや指導案から見て、理解が深まっていない場合は、更なる解説を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018子ども発達DP1	小学校における外国語活動（中学年）と外国語（高学年）の学習内容を理解できている。
	◇ 2018子ども発達DP2	児童の実態を把握し適切な学級経営の下、授業の目標を達成できる授業を実践できる。
	◇ 2018子ども発達DP3	新しい英語教育法を身に付け、発信できる英語を工夫して指導することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	10%	90%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
提出された課題の内容や量、取り組みに対する姿勢、授業内小テスト、実技（模擬授業等）で評価する。課題は提出期限に遅れるほど、減点する。対面授業では授業への出席、オンライン授業では一定期限内の課題提出を以って出席とする。基準の詳細は授業内で説明する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	文部科学省 『Let's Try! 1』 指導編・『Let's Try! 2』 指導編	
2	文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』開隆堂	978-4-304-05168-5
3	NEW HORIZON Elementary English Course 5	
4	NEW HORIZON Elementary English Course 6	
5	NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary	

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	文部科学省『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』	
2	樋口忠彦ほか『小学校英語教育法入門』研究社	
3	酒井英樹ほか『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』三省堂	
4		
5		